

令和4年度子ども議会本会議

開催日 令和4年(2022年) 8月4日(木)	会議時間	開会 午前 10時00分 閉会 午前 11時20分
会議場所 役場庁舎3F 町民ホール(議場)	記録者 こども未来課こども未来係長 谷井 彩乃	
出席者：片山町長、山本副町長、片岡教育長、町民生活課長、都市建設課参事、農政課参事、商工観光課長、町民学習課長、こども未来課長 広報：川尻主事 教委：学校教育課 馬淵係長、赤木主事 傍聴：11名		

議会内容

<開会行事>

1. 教育長あいさつ(片岡教育長)

今日子ども議員に立候補していただいたみなさんに感謝する。また、夏休み期間にもかかわらず、今日来てくれてありがとう。ニセコ町のまちづくりは、みなさんのような若い世代の人が期待されているので、子ども議会の活動を行ってくれることを大変心強く思っている。みんなは今日の本会議までに何度か集まって事前研修をしていると思う。委嘱状も交付した。これまでの事前研修でいろんなことを取り組んできたと思う。家族旅行や休み中の遊び等予定があったと思うが、この取り組みに努力してきたことに敬意を表する。この活動は大変意義のあるものだと考えていて、この経験が今後の学校生活、大人になってからも生きてくることと思う。今日、みんなからの要望や質問について、それら参考にして、これまで去年・一昨年と色々活動してきた中で改善されて実現したこともあるので、質問や要望について私たち役場職員真剣に検討し答弁していく。

2. 子ども議会議長・副議長・議員の紹介

議長：ニセコ小学校5年 西泉議員
副議長：ニセコ小学校5年 渋谷議員
〃：ニセコ小学校5年 高橋議員
議員：ニセコ小学校5年 浅川議員
ニセコ小学校5年 大道議員
ニセコ小学校5年 西山議員

3. 町への提案事項について

(1)「自然を味わえるイベントについて」

渋谷議員：ニセコの自然を味わえるイベントがあると観光客がもっと増えると思う。小さい子からお年寄りまで一緒に遊べるイベントがあるといい。

商工観光課長：今、ニセコ町には自然を味わうアクティビティはたくさんある。例えばラフティングや登山、サイクリングなど関連イベントも増えてきたところ。そのなかでもフットパスというものがあり、登山のような厳しい道ではなく、自然のけもの道や農道、河川敷など

練り歩いて自然や風景、街並みを身近にゆっくり味わうことができるので、子供からお年寄りまで楽しむことができる。ニセコ町内にもフットパスのコースが設定されているので、ぜひ渋谷議員もニセコのフットパスを歩いてみてほしい。ニセコの新たな発見ができると思う。このような観光資源をもっとPRして、これらフットパスなどを活用しながら幅広い年代と一緒に自然を楽しめるイベントをぜひ検討し、PRしていきたい。

西泉議長：再質問はあるか

渋谷議員：とくになし

(2) 「ニセコ町内の買い物について」

渋谷議員：ニセコ町内に買い物ができるお店がたくさんあるといいと思う。例えば、文房具、おかし、食べ物、飲み物が買えるお店がもっとあるといい。こうしたお店があると、欲しい物がすぐに見つかり便利だと思う。

商工観光課長：ニセコ町にはスーパーや個人商店をはじめコンビニも2件、最近ではドラッグストアができたりして少しずつだが選択肢が増えてきている。これはニセコ町に魅力を感じニセコ町に住みたいと思う人や観光客など、ニセコ町内で買い物をする人が増えてきたことが要因の一つだと思う。ニセコ町は人口約5,000人の小さな町なので、今あるお店や自然環境などのバランスの中で、どのようなお店が増えたらいいか考えながらお店の誘致など進めていかなければならないことを理解頂きたい。

また、一方でもっと地元の人が買い物をしてくれると、お店も活気がでるし充実してくると思う。ニセコ町ではキラカードというポイントカードによって地元でお買い物をしてくれるような取り組みも行っているので、ぜひ皆さんと一緒にまちの賑わいを作っていければと考えている。

町長：今日は議員として出席してくれてありがとう。渋谷議員から2つ大事な質問があった。ニセコ町は自然が豊かなので、この景観・自然を大切にしながら将来みんなが大人になったとき、その先の子どもたちのために残していきたいという思いがある。自然と親しむいろんな遊び、勉強などとても大切だと思なので、私たちもそういう機会を多く持ちたい。みんなも自然の中で工夫して遊びのメニューをつくっていくことも大切だと思うので、みんなで話し合っで豊かな自然を楽しむことを率先してやってほしい。役場や学校のみんなでやったほうがいいということがあればまた提案してもらいたい。一緒に遊びの場を作っていけたらと思う。

西泉議長：再質問はあるか

渋谷議員：とくになし

(3) 「林をそのまま残してほしい」

浅川議員：私の家の隣の小さな林には、りす、あかげら、きつね、うさぎ、たぬきがいて、その姿を見るとうれしくなる。でも、林の木を切ると動物たちを見られなくなってしまうので、林を残してほしいと思う。動物たちがいるということは、林の木が守られているということだと思う。林が守られていれば、地球温暖化を軽減できるから、林を残すことはできないか。

農政課参事：森林を観察し、その大切さを理解していることに感心した。森林は、植物や動物のすみかになっているほか、水を蓄える、土砂災害を防ぐ、二酸化炭素を吸収し酸素を作り出

すなど私たちの暮らしを守る働きがある。日本では土地の所有権といって、土地を持っている人がその土地をどう使うのかの権利を持っている。土地の樹木を切るとは一つで、木材を得たり、住宅を建てるための土地を確保することができる。これらは私たちが生きていくために必要なことであり、全部やめてしまうことは難しい。しかし、私たちの都合ばかり考えて行動すると森林はなくなってしまい悪い影響が出てしまう。町では森林を守っていくため、昨年皆さんが大人になった時の森林づくりの考え方と方向性をまとめた「森林ビジョン」をつくり、森林と工夫しながらお付き合いをしていくことにした。例えば、樹木を切った後何もせずそこにほったらかしにしておいたら樹木は生えてこないかもしれないが、ちゃんと樹木が育つように種をまいたり木の苗を植えたりして樹木が健康でよく成長するように、森林の手入れを行う。手入れをして樹木が元気になると私たちの暮らしを守る森林のはたらきもよくなるといわれている。町では、町が持っている森林で、毎年、少しずつ樹木を間引きして1本1本の樹木が太く丈夫に育つようにお手入れをしている。また、10月を予定しているが、駅前で木に触れるイベントを企画しているので是非遊びに来てほしい。私たちの暮らしが森や木と関わり、一人ひとりが森林を大切にするような社会になるようみんなで取り組んでいきたいと思う。

西泉議長：再質問はあるか

浅川議員：とくになし

(4)「あそぶつくみんなたいな場所がほしい」

浅川議員：私はあそぶつくをよく利用している。宿題や本を読んでいると、人が多く、走り回っている人や大声を出している人も少なくない。人が多いと、座ったり勉強したりするスペースがなくなってしまう。広いスペースで落ち着いてタブレット学習や宿題をして、習い事の時間まで待つことができる場所を作ってほしい。

町民学習課長：あそぶつくは読書や勉強をする場所なので、本来走り回ったり、大声を出したりしてはいけないことになっている。もし、走り回っている人や大声を出している人がいた場合は、おそぶつくのスタッフから注意するよう改めてお願いしておく。

また、人が多いと勉強するスペースがなくなるとのことだが、あそぶつくを増築したり新しく場所を作ったりするのは多額のお金がかかり残念ながらすぐにできそうにない。もし、あそぶつくが混んでいて座る場所がない時は、新しく出来た役場の3階にあるフリースペースか、町民センターに自由に使える共通スペースがあるので利用してほしい。

こども未来課長：放課後に子どもが安全に安心して勉強をしたり遊んだりする場所があるということとはとても大切なことだと考えているので、こども未来課からも補足して説明する。

小学生の皆さんが学校で過ごす時間と放課後に過ごす時間ではどちらが多いと思うか？実は、学校にいる時間は年間1,200時間、放課後の時間は年間約1,600時間といわれていて、放課後の時間のほうが400時間くらい多い。ここに座っている役場の皆さんは、かつて放課後に、友達と遊んだり、家の手伝いをしたりする中で、泣いたり、笑ったり、感動したり、悔しい思いをしたりして、善悪の判断、ほかの人に対する思いやり、社会のマナーなどを学んできた。みんなも同じような経験をしているのではと思うが、こうした経験を積み重ねていくことは大人になっていく中でとても大切なことだと考えている。現在、放課後に子どもたちが集う場所は、あそぶつくのほか、こども館、放課後子ども教室、未来ラボなどがある。すぐにとはいかないが、今後こうした場所がもっと増

えるようにしていきたいと思っているので、これからも子ども議会の場などを活用して
どんどん意見を出してほしい。

町長：貴重な質問ありがとうございます。ニセコはまわり見てもアンヌプリ・昆布岳・羊蹄山・森があつてとてもきれい。町有林だけでなく個人が持っている土地もあり、町内に林業家といて立派に森を守り北海道から表彰されている人もいて、森を大切にしながら日々活動している。

町では、このままなにもしないと個人で持っている森がだんだん機能を失いダメになってしまうという危機感を持っている。そこで、新たな森を守る組織を作り森林ビジョンに基づいて森を守る活動をしている。みんなで知恵を出して森を守り育てて活用していく。森の中でいろんな遊びができるように森を開放しながら森を育ててみんなで地元の机やテーブルに活用するなど育てて使っていくということを考えている。その中でもとっておきたいという森や林がある。具体的には、有島記念館の周りの土地を町で買った。そうしないと森や林、里山というのが、それがだんだん減っていってしまう。町が買える里山は買っていきながら将来にむかって森を残していきたいと思う。

また、別の質問で、あそぶつくのような場所も大切だと思っている。町では町民センターの2階に小さい部屋を自由に使える部屋として開放しているし、役場の1階の廊下のスペースも宿題や読書などに自由に使える。中央倉庫もみんなと仲間でお話できるような居場所として整備してあるので、どんどん活用してもらえればと思う。

西泉議長：再質問はあるか

浅川議員：とくになし

(10分間の休憩)

(西泉議長から渋谷副議長へ交代)

(5)「町民センター前の横断歩道の設置について」

高橋議員：私は習い事でよく町民センターを利用しているが、町民センターまで行くのに総合体育館側か役場側まで歩かなければならない。お年寄りや子どもが安全に町民センターに行くためには、もうひとつ消防側に横断歩道が必要だと思うので、ぜひ設置の検討してほしい。

町民生活課長：役場も消防側に横断歩道が必要だと考えている。横断歩道の設置は倶知安警察署へ要望をして公安委員会というところが決定をする。今後設置の要望をしていくので、これからは「交通規則・ルールを守る」という気持ちを持ち、学校生活を送ってほしい。

渋谷議長：再質問はあるか

高橋議員：とくになし

(6)「小中学校の屋上について」

高橋議員：私は学校の屋上に上ってみたいと思っている。理由は屋上に上って、みんなで景色を見たいから。このようなことができれば、ニセコに知らないところまで見れて、自分のためにもなると思う。4年生の勉強で屋上からの写真を見て、その時から屋上に上り

たいと思っていた。ぜひニセコ小学校、中学校の屋上に柵をつけて、安全に上がれるようにしてほしい。

教育長：小学校の屋上には、一部柵が設けられているので上ってみたい、普段見ることができない景色はどんなものか見たいという気持ちはすごくわかる。ただ、今ある柵は冬場の雪対策のために付けられている柵であり、学校の屋上は、景色を楽しんだりすることを予定したものではなく、屋根の点検や修理など学校の管理で必要な時に上がるためのもの。安全な柵をつけて屋上に上ってみたいという気持ちはわかるが、どんな柵をつけても絶対安全とういことはないので、現在は学校の安全管理による危険防止のために屋上に上がることは難しい。ただ、学習の中で学校の先生たちと一緒に安全を確保して屋上からの景色を見ることができないかニセコ小学校と検討したいと思う。

教育長：今日は、ニセコ小学校校長も傍聴に来ていて、みんなの熱心な議会議員ぶりをみている。学校の施設設備は安全安心が第一なので、それを大事にしているため、屋上をはじめみんなが自由に立ち入ることができないところが多いと思う。ただ、今回の要望については、学校と約束事をきめて取り組めばできるのではと思っているので、ぜひみんなのそういった思いを率直に出してもらったのは我々としても新たな気づきとなるので感謝している。

渋谷副議長：再質問はあるか

高橋議員：とくになし

(7)「町民プールの機能向上について」

大道議員：私は町民プールに設備をつけたり、清潔なプールにしてほしい。理由はあまり町民プールに来ていない人も、ウォータースライダーをつけたり、清潔なプールにしたら来てくれると思うから。

町民学習課長：現在の場所に町営プールができたのは、1963年（昭和38年）で、片山町長も利用していた伝統ある施設で、これまで水槽にステンレス材を貼ったり、プールサイドの床面、屋根の骨組みやテントの改修を行ってきた。また、今年はオープン準備をしていた時に、水をきれいにする機械の故障がわかり、オープンが遅れてしまい申し訳なかった。

さて、このプールは、将来的に新たに更新することを考えている。更新するときにはどのようなプールがいいのか、例えばみんなが来やすいのはどの辺りかといった場所の問題、プールの機能や大きさといった施設面の課題、建設費や管理費用など将来にわたって負担が大きくなるかといったお金の問題など、いろいろな角度から検討していくことにしている。ウォータースライダーは、今のプールには付けられないので、その更新時に併せて考えていきたい。

もう1つの清潔なプールにしてほしいとの要望について、その通りだと思う。施設は古くてもきれいな環境で利用してもらえよう、これからも注意して管理したいと思う。もし気になることがあったら、プールの管理人や体育館にいる職員に伝えてもらえるとありがたい。

教育長：プールの更新については今後具体的な検討が必要だと思っている。その際には多くのみんなの意見や要望を取り入れて検討を重ねていきたい。プールをきれいにしてほしいというのは大切なことなので、短期間でできるものについてはその都度対応していく。

渋谷議長：再質問はあるか

大道議員：とくになし

(8)「ブレイブボードや自転車が楽しめる場所がほしい」

大道議員：私はちびっこ広場のゴーカートが走っていたコースでブレイブボードや自転車に乗ろうとしたが、石や砂があって乗ることができなかった。石や砂を取ってもらって、気持ちよく乗ることができるようにしてほしい。

都市建設課参事：不快は思いをさせたこと、お詫びする。ちびっこ広場は芝刈りや枯れ葉集めなどを行い、みんなが気持ちよく使えるように努めてはいるが、今後はそのようなことがないように旧ゴーカートコースを定期的に清掃する。また、ブレイブボードや自転車で遊ぶときはヘルメットをかぶり周りに小さい子がいないか確認してから安全に遊んでもらいたい。

渋谷副議長：再質問はあるか

大道議員：とくになし

町長：プールは何年も前から作らないといけないとされていて色々調査しているが、作るなら冬でも使えるようなものにしたいと考えている。電気や化石燃料を使わず、地中熱や太陽光を使った自然再生可能エネルギーで二酸化炭素が出ないものを作りたいと思っている。ニセコ町は環境モデル都市の指定を受けて、町全体の二酸化炭素をなくそうと頑張っているのでエネルギーの基本になるものを調査している。冬場でもお金をかけずにニセコ町のみんなが利用できるプールになればいいなと思っている。全体を見通しながらできるだけ早くプールを作りたい。ちびっこ広場も、使うみんなに清掃活動など協力してもらえたらなと思っている。ちびっこ広場も水で遊べることもみんなの意見をもらって設計しているのでいろんな周りの問題が解決出来たら遊具も増やしていきたいと思っている。

(渋谷副議長から高橋副議長へ交代)

(9)「ドッグランの設置について」

西泉議員：ドッグランの設置を提案する。理由は、足腰が悪いのに、犬のためにがんばって散歩をしている人がいるので、犬のリードを外して自由に遊べるような場所がニセコに欲しいと思ったから。他にも、犬を飼っていない人の癒しになるといいと思った。他の犬とも遊んで息抜きになったらいいと思う。

町民生活課長：ニセコ町でも多くの人が犬を飼っており、現在ニセコ町には約 280 頭の犬が飼われている。ドッグランは、飼い主同士のコミュニケーションの場や、犬の運動不足解消、ストレス発散の場として人気の高い施設だと思う。ドッグランを造るには、ある程度の広さの土地、犬が逃げないための柵の設置、犬が吠えた場合には近所迷惑となることから、近くに住宅がないことなどいくつかの条件が必要となる。

このため、今役場で持っている土地で、ドッグラン専用とすることができる場所が無いことなどから、役場としてドッグランを造る予定は今のところないが、今後公園など整備す

ることがあれば設置の検討をしていきたい。また、ニセコ町内には民間事業者の方が造ったドッグランがアンヌプリや東山などがあるので、そちらを利用するのもいいかと思う。

高橋副議長：再質問はあるか

西泉議員：とくになし

(10)「お菓子屋さんがほしい」

西泉議員：いろいろな安いお菓子屋さんがあったらいいと思う。土日にみんなでお菓子を買って行って、お菓子交換などをやりたい。友達が家に来てやったら楽しいと思う。

商工観光課長：かつてはニセコ町内でも楽しみながら安くお菓子を買うことができる駄菓子屋さんがあった。しかし、店主の高齢化などにより、お店を続けることが難しくなってしまった。一方で、先ほどの渋谷議員の時にも答弁したが、ニセコ町にも少しずつお菓子が買えるお店が増えてきて、町内の商店では駄菓子コーナーを設けるなど子どもたちでも買いやすく工夫しているお店もあるので、ぜひ町内のお店を散策してほしい。地元の子ども達が集まるようなイベントなどで、駄菓子販売コーナーを設けるアイデアなども検討してみようと思う。また、ニセコ町では新しいお店を始める人に対して施設の工事費の一部を支援する仕組みがあるので、大人になっても子どもたちが楽しくて安く買い物ができる駄菓子屋さんを自分が作るんだという思いがあったら、ぜひ商工観光課に相談してほしいと思う。今後も皆さんと一緒にまちの賑わいを作っていければと考えている。

高橋副議長：再質問はあるか

西泉議員：とくになし

副町長：さきほどは上手な司会ご苦労様。今回の質問だが、もしかしたら安い駄菓子を買えるところが少ないということであれば、自分たちでお菓子を作って交換してみるのもいいのではと思った。さっき、商工観光課長より、もし大人になって駄菓子屋さんをやってみたいということであれば、町が支援しますと言ったが、それは本当の話。西泉議員は将来たくさん選択肢があって色々やってみたいことがあると思う。その中でニセコ町に残って駄菓子屋さんを子どもたちのためにやりたいと思ったら、役場に来てぜひやってみたいと相談いただければ、本気で支援をしてくことは考えているので覚えていてもらえたら。

町長：ドッグランについて、犬の散歩ができないお年寄りが増えてきたからそういう場所が必要だという発想は思いやりがあって素晴らしいと思う。町では実現が難しいかなと思っているが、どこかいい場所があれば検討できたらと思っているので、もしいい土地などあれば検討したい。

(11)「総合体育館の広さについて」

西山議員：友達と総合体育館でドッジボールを遊んでいて狭く思った。もっと広い体育館にできないか。

町民学習課長：皆さんに利用いただいている総合体育館は、1980年にオープンしたもので、今年で42年経過する。建設当時は、小樽市以外の後志管内で一番設備の整った体育館

だったが、完成から多くの年数が経過しいろいろと傷みが出てきている。そのような体育館の状況を知るため、昨年詳しく調べたところ、アリーナ床や外壁、配管関係などは早めに更新する必要があること、さらに屋根などもこの数年で修繕が必要との結果が出た。これらの箇所をすべて更新すると、6億円以上のお金がかかる。体育館を広くするには、新しく建てる必要があるが、その場合どのくらいの費用が必要か、参考にほかの町の事例を聞いてみると、約10～17億円とのことだったが、最近の物価が高くなっている状況を考えるともっと多くのお金がかかりそう。体育館新築は、非常に大きなお金が必要なため現在は今使っている体育館を修理しながらさらに必要な備品類を更新するなどして、町民の皆さんがスポーツしやすい環境づくりをすすめていく。

高橋副議長：再質問はあるか

西山議員：とくになし

教育長：さきほどの町民学習課長の答弁に対し、少し補足をしたい。さきほどもプールの更新や体育館も古くなっているということで町が所有するスポーツ施設の老朽化の問題は大きい。町全体としてはほかの建物なども新築する予定がある中で、町民のみんなの税金の中で対応しているので全体の必要度については町民の意見を聞きつつ優先順位をつけて取り組んでいく。プールについては早めに建てることのできるようにと取り組んでいきたい。今回思いを述べたことがきっかけとなって、我々も具体的な検討や活動ができるので貴重な意見・質問ありがとうございます。

(12)「トランポリンの設置について」

西山議員：私はちびっこ広場や運動公園にトランポリンを置いてほしいと思っている。トランポリンがあるとみんなで遊べるし、バック転や前転の技ができるので置いてほしい。

都市建設課参事：運動公園は平成3年、ちびっこ広場は平成2年にオープンし、この2か所の公園は、町内業者へ維持管理をお願いしている。トランポリンは、私も楽しい遊具だと思っているが、近年トランポリン利用者のケガがとて増えていて、札幌市の多くの公園でもトランポリンを撤去している。

このことから、トランポリンで安全に遊ぶには、安全対策や遊びを見守る人の配置が必要と考えている。現在の公園管理体制ではこうした安全管理をすることが難しいため設置については理解頂きたい。なお、ニセコ駅近くの中央倉庫群には、大中小のトランポリンがあるそう。現在、スペースの都合や安全管理の関係で、設置をしていないときもあるが、遊びたいときには相談してほしいとのことだった。西山議員も安全には十分気を付けて、技を決められるよう楽しんでほしい。

高橋副議長：再質問はあるか

西山議員：とくになし

町長：2つの提案どちらもスポーツや運動に関する内容だったが、みんなが楽しく運動することは大切で、体を動かすことが健康や学習活動に大きな効果がることは医学・科学の世界でデー

タとしてもわかってきている。町でも総合体育館を中心としてできるだけ運動の機会をこれから増やしていきたいと思うし、例えば、ニセコ中学校を作るときには、町民に広く開放する前提でニセコ中学校の体育館を建てた。中学校や各学校の体育館も幅広く町民のみんなが使えるよう利用が促進できるようお願いしていきたいと思う。

トランポリンはすごくいいと思う。事故の心配があるとのことだが、日にちを決めてトランポリンやろうとみんなでやってもいいと思うので、教育委員会と相談しながら検討していきたいと思う。

4. 閉会行事

(1) 町長挨拶（片山町長）

今日は子ども議会に参加してもらい、ありがとう。ニセコ町はこの他まちづくり委員会をやりたり教育委員会でも公営塾をやりたりしており、今後もみんながまちづくりやいろんな学習に参加できる取り組みを増やしていきたいと思う。ニセコ町は全国で初めて「まちづくり基本条例」という町の憲法を作った町。その中に子どもの権利についても規定している。子どものみんながまちづくりに参加する権利を謳っていて、大変重要な町の憲法なので、学校や家庭でまちづくり基本条例を学び、子どもの参加権について理解を深めてもらいたい。

ニセコ町は、今環境をととても大切にしている。そのために条例を作ったりして環境を大切にすまちづくりを行っている。ニセコ町が指定された環境モデル都市は、北海道ではニセコ町を含め4つの自治体のみで、さらにニセコ町はSDG s 未来都市にも指定されている。自然を大切にしながら、緑や地球環境が今後も持続していけるように、お金はもちろん大事だが、それが唯一の目標じゃなく、みんなで支えあう社会をどうやってつくるのかというのはSDG s の大きい目標。今日の子ども議会の中で横断歩道の提案も出たが、これまで車社会で経済や効率を日本だけでなく世界は優先してきた。でもそれでは私たちの暮らしが豊かにならないことがわかってきた。みんなで応援しあう、助け合う社会をどうつくっていくかは課題。今回の議会を契機として、SDG s の内容やみんなで助け合う社会について考えてほしい。将来、まちづくりについて自分の意志で主体的に参加してほしいし、選挙権を必ず行使し、自分たちがまちや国をつくっていく気概を持っていてほしい。こういう機会を毎年設けているし、まちづくり委員会にも積極的に参加してほしい。今日参加いただいたこども議員及び傍聴に来てくださった方に感謝を申し上げて挨拶とする。

(2) 記念写真撮影